



2024年4月11日
第151号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>


イーハトーブ

4月10日号

能登半島地震から見えた原発の問題や、沖縄県名護市辺野古の新基地建設問題、自民党安倍派議員を中心とした裏金問題などの様々な新聞報道を見ながら、近々想定されている衆議院選挙について考えてみた。

衆議院選挙における過去最高の投票率は、昭和33年に実施した76.99%である。ちなみに、前回の令和3年「第49回衆議院総選挙」における投票率は55.93%と戦後3番目の低さで、年代別で言えば20代前半の投票率が約30%と一番低く、20代後半も約36%と二番目に低い。日本国民の約半数が投票に行っていないし、働き盛りでこれからの未来を担う20代が約3割しか投票に行っていないという現実である。約半数の民意が反映されていない国政選挙を通じ、現在の自公政権が生まれ出されている。

その自公政権により、防衛費の増額や未だに原発事故の収束目途がつかないにも関わらず原発推進政策が継続され、辺野古の新基地建設も沖縄県民の民意を無視して裁判を通じた代執行で強行されている。極めつけは、安倍派議員を中心とした裏金問題が発覚し、腐敗した政治が生まれ出されている。

政治不信や無関心が今の政治をつくり出しているし、それを許しつつ自らも無関心であつた私の問題でもあると痛感した。特に、今回の裏金問題で政治不信を抱いている人はなおさら不信感を増大させたと思う。しかし、私たちが政治に関心を持ち、選挙はもちろん「19日行動」や「さよなら原発集会」などへの参加も含めて自ら行動すると同時に、仲間と議論しつつ行動への参加を呼びかけていかなければ、政治不信や無関心は払拭出来ないし、政権運営もますますとんでもない方向に行ってしまう。

近いうちに次期衆議院選挙が想定されるが、私たちは政治に関心を持ち政権運営を注視していかなければならない。今の自公政権による腐敗した政治を変えるためにも、私たちは一つの手段である選挙での投票を通じて自公政権にしっかりとNOを突きつけなければならぬ。同時に、様々な行動に仲間とともに参加することを通じて、誰かに任せるのではなく、自ら具体的に行動しなければ腐敗した政治を変えることは出来ない。(M・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという思いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。